

幡野恭子：復活！関西藻類談話会（報告）

関西藻類談話会が、1995年12月9日（土）午後には神戸大学理学部で開催されました。関西藻類談話会をご存じない方も多いと思いますが、この談話会は、藻類を材料として研究を行っている関西および中国、四国地方の方々の集まりです。現在60才代の先生方が若かりし頃に行っておられた小人数の勉強会が発展して今の談話会となったそうです。久しく会合が途絶えていましたが、関西、四国地方では藻類を扱っている研究者が徐々に増えてきていることもあり、このたび研究交流を行う場として8年ぶりに復活いたしました。談話会当日の参加者は約50名でした。その所属は大学、研究所、博物館、高校、水道局、水産試験場、漁協などとさまざまで、退職された先生方から4回生の学生さんまで幅広い年齢層の方々にお集まりいただきました。高知や広島など、遠くからの参加もありました。

発表者（敬称略）と講演題目は以下のとおりでした。
永井玲子（大阪大・理学部）*Dichotomosiphon*をめぐる諸問題

峯 一朗（高知大・理学部）紅藻の受精研究の現状
斎藤達昭（神戸大・理学部）*Chlamydomonas*におけるシグナル伝達研究の現状

藤田裕子（京都大・農学部）水田における微細藻類の分布と変動

永井先生はご自分の研究の道筋をたどりながら講演されました。つぎつぎと出されるデータに惹き付けられていくようなお話しで、研究の発展の経緯がよくわかりました。終始、先生の研究に対する情熱が感じられ、私にとってはとても魅力的な講演でした。そのあと、峯先生、斎藤先生、藤田さんが現在取り組まれているテーマに関して、これまでの経過や現状、これからの問題点などをおこんで講演されました。進行中の研究ということで、学会と違って講演中にも質問や意見がとびだし、講演後にも活発な議論がおこなわれました。今回いろいろな分野の話を興味深くきかせていただき、刺激を受け、私自身とてもよい勉強になりました。

講演後、今後の談話会の運営についての相談が行われました。談話会創立時から関わっておられる先生方からはじめて談話会に出席された方まで、話し合いに加わっていただきました。その結果、談話会会場の世話役と庶務関係の世話役をおき、年1回程度談話会を

開催することになりました。次回の談話会は奈良女子大学の野口先生にご協力いただき、平成8年11月頃に奈良女子大学で行う予定です。

談話会后、淡路島岩屋の神戸大学内海域機能教育研究センター（旧理学部附属臨海実験所）に移動して、懇親会が行われました。移動中、神戸大学からJR六甲道駅まで歩きましたが、震災のあとの更地が多いのに驚きました。懇親会には27名の参加がありました。まず、ビールとお弁当で会食が始まりました。参加者の自己紹介や活発な研究交流が行われる中、センター長の榎本先生が自ら新鮮な魚をお料理されました。鱈、鰻、鯛、穴子などが、塩焼きをはじめ、南蛮づけ、煮付けとなって次々と登場しました。私は京都でくらし、ふだんはなかなか新鮮な魚を食べる機会に恵まれませんので、この企画には感激しました。榎本先生の手さばきはなかなかのものでした。旧理学部附属臨海実験所での研究経験があるという夢野台高校の奈島先生と高知大学の奥田先生も調理に加われ、見事な腕前を披露されました。お酒と海の幸とともに、活発に交流がおこなわれ、懇親会は延々と深夜まで続きました。希望者はセンターに宿泊させていただきました。

神戸大学の川井先生のお世話になりながら、私は今回はじめて談話会の企画に携わりました。いきとどかない点多かったと思いますが、盛會に終わることができほっとしています。ご協力いただいた発表者の方や神戸大学の先生方と学生さん、参加者の皆様方に心から感謝いたします。そして、談話会を機会にして藻類の研究の輪が少しでも広がっていけばと願っております。関西藻類談話会という名称では関西以外からの参加者に申し訳ないので、藻類談話会という名称にしようという意見もでています。これからも多数の方々のご参加をお待ちしております。次回は秋の奈良でお会いしましょう。なお、関西藻類談話会に関するお問い合わせは以下の宛先までお願いいたします。

問い合わせ先：〒606-01 京都市左京区吉田二本松町
京都大学総合人間学部自然環境学科
幡野恭子

TEL : 075-753-6854 FAX : 075-753-6864

e-mail : hatano@gaia.h.kyoto-u.ac.jp

（京都大学総合人間学部）